

# 潜在バグへのアプローチ

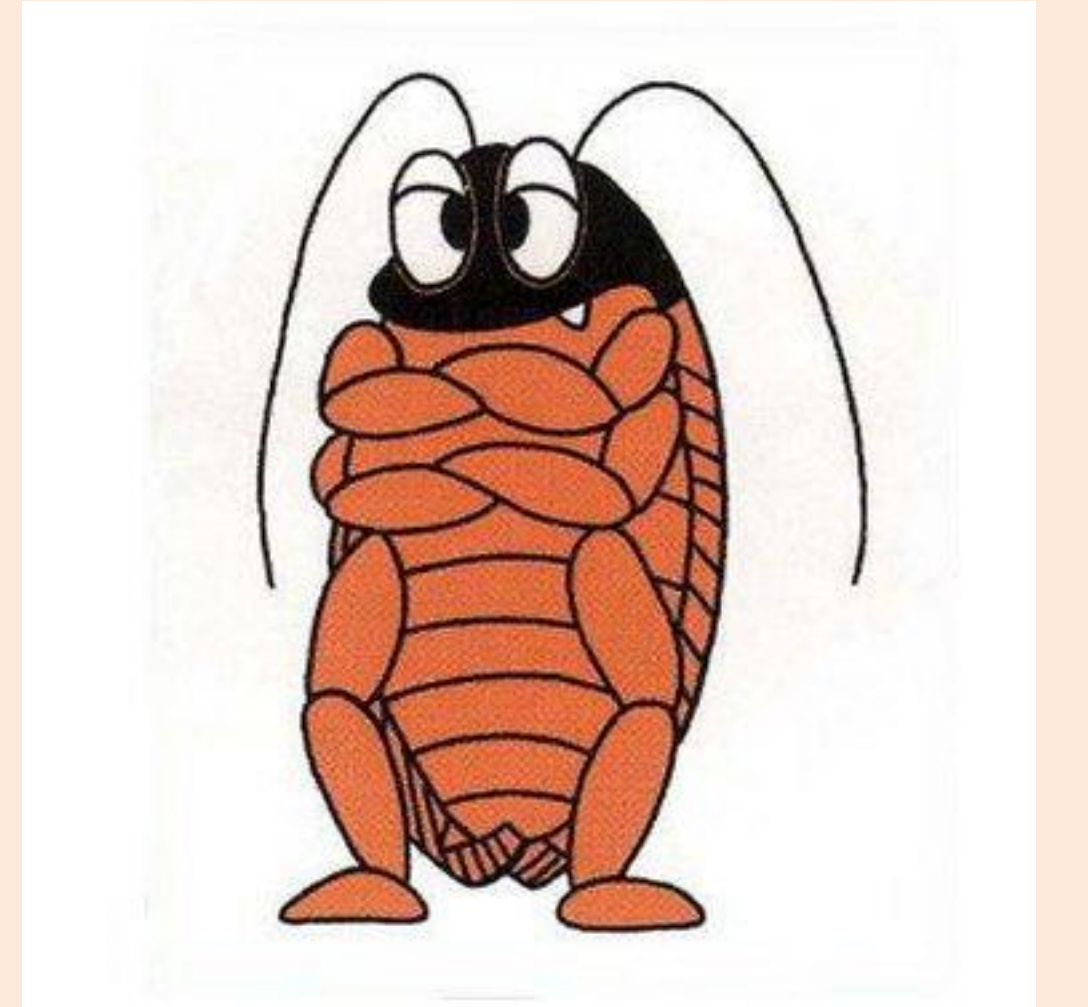


## 課題：潜在バグを減らす

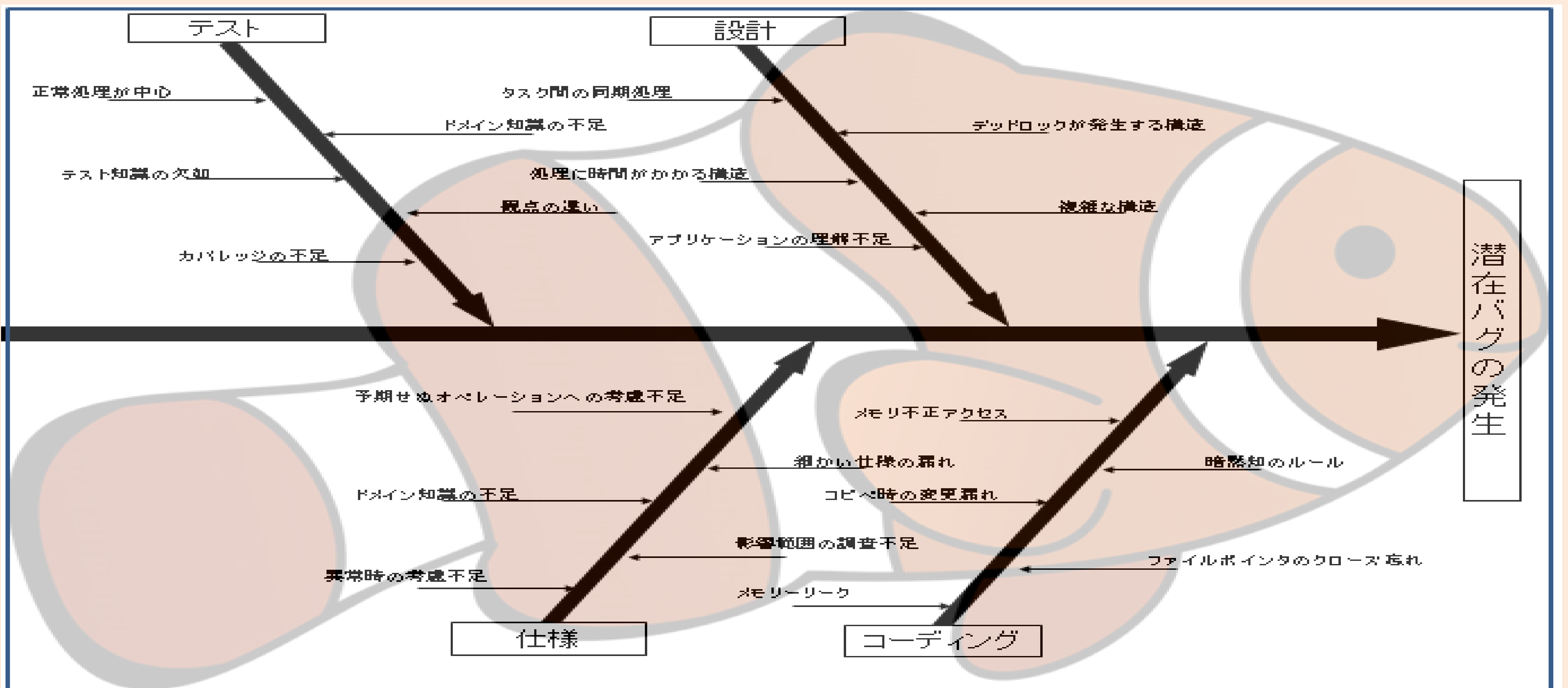
潜在バグ：ソフトウェアリリース後に1年以上経過してカスタマーから報告されるバグ

### 潜在バグの特徴

- 発生頻度が極端に低い。
- カスタマーのオペレーション方法が変化することで発生する。
- ハードウェアの故障に付随して発生する。
- 時間の経過により発生する。
- 原因がわからず根本的な対策が出来ない。



### 要因分析



### 施策

問題点	対策	良い点	問題点
仕様	USDM	未実施	・作成に時間がかかり非現実的
設計	スペックアウト	未実施	・スキルの不足
コーディング	静的解析ツール	コーディングエラーを短時間で検出できた。	・修正により新たなバグが混入 ・量が多く選別するのが困難
テスト	スープカレー表 過去バグの活用	これまでとは違う観点でテストを実施出来た。	・実際の使い方とかけ離れたバグを検出



### 用語説明

USDM：Universal Specification Describing Mannerの略 要求を仕様化する方法

スープカレー表：TEF-道によりJaSST'09北海道にて紹介されたテスト手法

縦に「機能観点」、横に「顧客観点(過去バグ)」を設定して交点に縦横から得た観点のテストケースを作成する。